【がん種】 非ホジキンリンパ腫
【レジメン名】 R-MPV②2, 4, 6コース目
【登録番号】 011155
【1コースの期間】 2週間
【投与間隔調整規定】 ー1日
【総コース数】 3コースまで(R-MPV①+R-MPV②合計5～7コース施行後、全脳照射、Ara-C大量療法を施行する.【髄液細胞診陽性例】day5～12の間に1回　MTX髄注 実施.)
【催吐性リスク】 中等度:メソトレキセート、最小度:オンコビン、最小度:リツキシマブBS
【抗がん剤の組織障害性】 ビシカント(起壊死性):オンコビン(漏出時の冷却禁止, 漏出時のステロイド局注禁止)、イリタント(炎症性):エンドキサン、ノンビシカント(非壊死性):リツキシマブBS, メソトレキセート
【投与量に制限のある薬剤】 オンコビン:1回に2mg/bodyまで
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、クレアチニン増加、注入に伴う反応、疲労、間質性肺炎、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎、味覚不全、下痢、便秘、イレウス、脱毛、出血性膀胱炎

【必要な検査】 一般採血, メソトレキセート開始48時間及び72時間後のメソトレキセートの血中濃度.
【根拠論文】 J Clin Oncol 25:4730-4735, 2007. J Clin Oncol 31:3971-3979, 2013.
【点滴の時間】 [day1]初回約5時間, 2回目～約4時間、[day3]85時間
【その他】 対象患者:CD20+の中枢原発非ホジキンリンパ腫(PCNSL).　メソトレキセートの血中濃度が48時間時1.0μmoL/L< or 72時間時0.1μmoL/L<の場合は、0.1μmoL/L≧になるまでロイコボリン 40mgを4時間毎に投与する.

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日								
					1	2	3	4	5	…	12	…	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ＆フラッシュ	○								
2	アセトアミノフェン錠 200mg	3 錠/回	内服	1日1回 リツキシマブBS投与30分前	○								
3	生理食塩液 50mL ソル・コーテフ注射用 100mg ポララミン注 5mg/1mL	1 B 1 V 1 A	側管	全開 開始時にアセトアミノフェン内服	○								
4	生理食塩液 100mL	1 B	側管	30分	○								
5	生理食塩液 500mL リツキシマブBS点滴静注「KHK」 初回 50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ速度を上げ、最大400mL/hまで 2回目～ 100mL/hで開始し、30分毎に100mL/hずつ速度を上げ、最大400mL/hまで	- mL 375 mg/m2	側管	 1mg/mLの濃度に調製	○								
6	ソルデム3A 500mL メイロン静注7% 20mL day2AM0:00～day5PM12:00まで継続投与	1 B 1 A	側管	130mL/h		○	○	○	○				
7	生理食塩液 50mL ロイコボリン注	1 B 24 mg	側管	全開 AM0:00				○	○				
8	生理食塩液 50mL ロイコボリン注	1 B 24 mg	側管	全開 AM6:00				○	○				
9	生理食塩液 50mL ダイアモックス注射用 500mg	1 B 0.5 V	側管	全開 AM6:10		○	○	○	○				
10	生理食塩液 100mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V	側管	30分 AM6:20			○	○					
11	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ＆フラッシュ		○							
12	生理食塩液 100mL アロキシ静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分		○							
13	生理食塩液 250mL 注射用メソトレキセート	1 B 3.5 g/m2	側管	2時間 AM11:30		○							
14	生理食塩液 50mL ロイコボリン注	1 B 24 mg	側管	全開 PM12:00			○	○	○				
15	生理食塩液 50mL オンコビン注射用	1 B 1.4 mg/m2	側管	全開 AM13:30		○							
16	生理食塩液 50mL ダイアモックス注射用 500mg	1 B 0.5 V	側管	全開 PM18:10		○	○	○					
17	生理食塩液 50mL ロイコボリン注	1 B 24 mg	側管	全開 PM18:00			○	○					